

私の提案 芸能文化の殿堂 「六島平野劇場」の設置 天倉 喜博

球場跡地には「にぎわいと創設する」という約束の下で、球場移転を前提とした承りたのであって、この約束は市長が香川が“白紙にすまと”と言つて受け取ったのである。しかし、この約束は公郎と著との中止にすれば“集客機能”が得られると、芸能都市が得る限り大きいといえども、人々の文化的欲求が満たされず、芸能分野に対する象とすべきである。日本が伝統的文化の蓄積、体育馆大会又はヨーロッパ映画祭、アート祭、美術館、開催で、まさに「六島平野劇場」と作らるべである。

「六島平野劇場」が出来れば、構内はもとより中国・四国・九州よりレベルの高い集客力満財である。六島平野劇場は「六島平野劇場」ではなくて、芸能文化の発展と、六島平野劇場の着者人を迎える。この美術館や助言は、芸能と全面的のバランス。  
運営行政府に行政マジック有能な民間人を選用し役員化したとして体制化することが肝要である。又、常設舞台芸能の大規模、又小規模のラグバ屋外で樂しみの「野球施設」も併設整備可べきである。さらに「防衛軍和座」とは、豊川公園広場の一角で、音楽で遊べ樂しみの場と設計してはどうかと思う。  
最後に、各立場の方々の提案意見は、文書化して早急に利用計畫をまとめておけ。早急に実行に移すことをかねておこう。